

論 点

(安全への投資や防災活動のインセンティブづくり)

1. 企業の力を生かした防災活動への貢献

(1) 企業自らのための防災投資

① 企業の耐震補強等の自社の防災投資を促進する方策

(生産活動の維持が地域経済への貢献となる。BCPにおける従業員の安全確保の要請から、従業員の自宅の耐震補強や家具固定を進める効果も期待できる。)

② 企業取引を介した災害被害の波及を抑制する方策

(BCP策定、取引関係を通じた情報交換等による防災活動の促進など。特に取引関係を通じた情報交換による取組促進が重要。)

(2) 企業の製品・サービスを通じた防災力向上への貢献

① 防災技術・サービスの開発やアイデアの開発の促進方策

(日常使用するような製品にも防災のための工夫(固定金具等)を組み込むことも含む。防災用品のコンテスト等)

② 防災製品・サービスの情報提供・発信にかかる工夫

(防災技術、ノウハウ、アイデアの見本市(後述)。さらに、家具固定がしやすい住宅など、市場創設・市場規模拡大のための官民の取組が必要)

(3) 企業の社会貢献・地域貢献としての防災の取組み

① 企業の自社の防災の取組みを市場が評価する方法

(環境の取組みと同様に市場での評価が進展することが必要。格付け機関や金融機関の防災格付け・防災取組み条件の広がり期待。)

② 企業の地域貢献を市場で評価する方法

(企業のCSR、イメージアップ戦略と呼応。表彰、調達条件に際する考慮など)

③ 企業の営業活動と社会貢献活動の制度的・資金的なリンク

(資金循環をいかに作っていくか)

2. 家庭内における安全への投資意識の向上

① 家族がみんなで考える機会・場をどうやってつくるのか

(子どもの学校の宿題、学校や企業からの安否確認の方法などの指示、住宅の新築や引越し、町内会・自治会からのお勧めなどをきっかけにする)

② 正しい防災知識を家族で取得・共有できる工夫

(家具の補強を防災訓練の内容に取り入れる、学校の教育で家族の役割分担を考える、地域の自治会活動を通じて学ぶ、マスコミから学ぶなど)

③ 家庭での取組の持続性の確保

(防災の日には予防のための行動を実践するよう、自治会、企業、学校から働きかけを行うなど。転居の多い春に、新たな住宅の耐震性確保、家具固定のきっかけの日を設けたらどうか。)

④ 家庭の取組が実施しやすい環境の整備

(家具の固定がしやすい住宅の供給促進、高層ビルで造りつけ家具の促進、倒壊しない程度の安い耐震補強の促進、防災関係者もまず自分の家庭で防災の取組みを実践するなど)

3. 防災面の安全性をまちの魅力として周知

① 地域構成員が、防災安全性では相互に依存しているという意識作り

(地震で家が倒壊した場合、避難路を塞ぐ、発火の原因となる、下敷きになった場合に救助で消火が後回しになるなど、地域にいかに迷惑をかけるかを互いに認識)

② 活動の計画性、持続性の確保

(まちの防災性の高さを簡易に測る方策、表示する方策の設定(進捗を確認しやすくし、まち自慢につなげられるようにする)。防災活動のための資金循環をいかに作っていくか。行政の補助金以外の支援のための資金循環スキーム)

③ 他の地域活動と連動し、楽しく活発なわがまちづくりの一環としての推進

(地域の安全の向上がまちの魅力作りにつながることを認識し、防災活動をまちぐるみで盛り上げる。祭り、パレード、バザーなどへの防災の担い手の楽しい参加例を紹介するなど。)

4. 防災関係技術の展示会や製品見本市の活用

① 新技術・新製品の普及のための広告等

(機能の評価・推薦をする団体の登場も期待される。海外の防災製品や防災の工夫の展示、輸出の可能性の積極的検討)

② 持続性の確保

(民間団体主体の行事や広報支援の可能性、別目的の展示会・見本市で防災関連コーナーを広げる工夫。)

5. 防災に関するロゴ、マーク等の活用

① 「企業・団体の活動」に資するロゴ、マーク等

（防災活動に賛助する、自社の施設が新耐震基準を満たしている、あるいは緊急地震速報の取り入れを実施しているなど、災害対策に何らかの積極的な取組みを実施していることをアピールする）

② 「製品の魅力」に資するロゴ、マーク等

（防災活動に賛助する製品であること、あるいは防災上の何らかの付加価値があることをアピールする）

③ 「家庭・職場・学校などの空間の安全」に資するロゴ、マーク等

（建物に耐震性がある、建物等で安全に避難する空間を設けてある、安全な部材（防災ガラス、飛散防止フィルムの使用等）を使用していることなど）